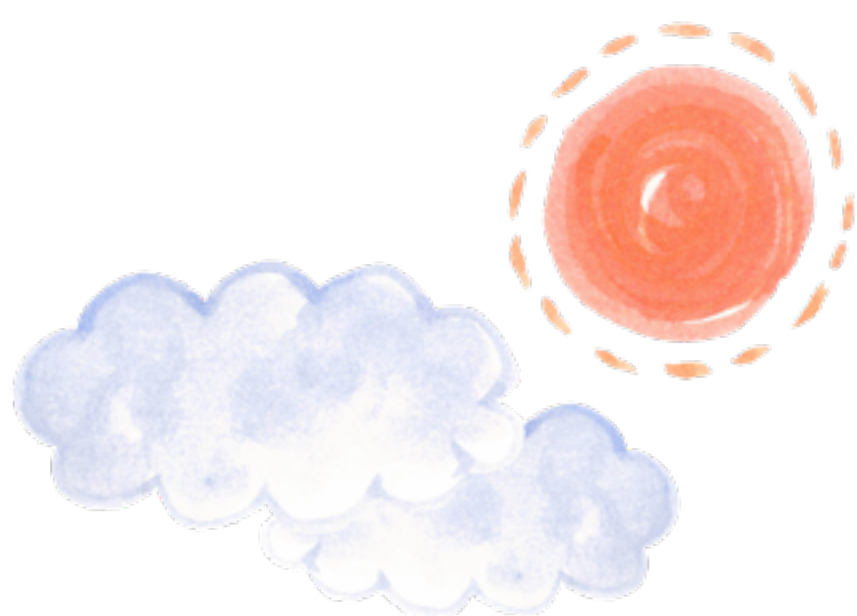
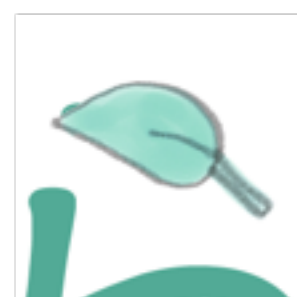


日本獣医生命科学大学
比較発達心理学教室発信
動物と人のコミュニケーションレター

のっぱら



noppara

2016 no.14 -電子版第三号-

もくじ

絆を深めるしつけ

文・撮影 / 宇埜友美子

ドイツの動物園 訪問記！

文・撮影 / 小谷幸穂

動物と触れ合うこと

文・撮影 / 折田琴美

動物介在活動 ～人と犬～

文・撮影 / 鎌田実希

嫌い！と言われないうんちゃんになろう

文 / 鈴木かりん

ピーターラビットと鳥獣戯画

文・イラスト / 永山正実

十二支のお話

文・撮影 / 後迫かほり

うさぎ島から人と動物の関わり方を考える

文・撮影 / 山本悠暉

ペットを撮る

文・撮影 / 前田采香

絆を深めるしつけ

文・撮影 / 宇埜友美子

我が家の愛犬プーは困った行動の多い犬です。おやつを見つけるとくれるまでほえつづけたり、お気に入りのもの(ティッシュなど)をくわえて離さなかったり…

そこで、飼主と犬の信頼関係を築き、安全に幸せに過ごすためにというコンセプトで、その中の初歩であるアイコンタクトに、我が家の愛犬プーを挑戦させました。その様子を映像でご紹介します。

最後にはしつけの発展であるアジリティの様子もお見せします！ ※アジリティとは…障害物を使ったワンちゃんの競技です

今回おしえていただいたのは、吉祥寺のしつけ教室のなべはまりさんです。

しつけ教室ではとてもおりこうなチワワのやくもくんがお手本になってくれました。



お手本を見せてくれた
チワワのやくもくん

そして
しつけに挑戦するのは
我が家の愛犬プーです
ただいま1才11ヶ月♪





アイコンタクトのメリットとは

- 犬は、「目を見たらいいことがある。名前を呼ばれたらいいことがある」と覚える。
- アイコンタクトをしている時は他のことが気にならなくなる。
- 飼主と犬の信頼関係を築くことに繋がる。

Movie

ぷーちゃんと挑戦！

Step

1

Movie



- ① 飼い主は背筋を伸ばし、おやつを自分の顎の下辺りで持ち、犬にはリードをつけ、そのリードは短めに保つ。犬が泣いたり、暴れたりしたら無視する。
- ② まず、犬が目をみたら、「ぷーちゃん、おりこう！」ひとことほめておやつをあげる。
- ③ 次から、犬が目を見たら、名前を1回だけ呼び「おりこう、可愛い、カッコイイ・・・」等と段々褒め言葉を長くしていき、おやつをあげる。

※1：途中でよそ見をしたら褒めるのをやめて沈黙する。再度見た時に素早く名前を呼び一言だけ褒めておやつをあげる。

※2：※1はステップ2～5でも同様に行う。

Step
2
Movie



- ① ステップ1とやり方は同じだが、おやつを持つ位置を自分の膝辺りにする。

※ステップ1の時よりも犬にはおやつの位置が近いので我慢が必要になる。あとはステップ1の②③と同じ

Step
3
Movie



- ① おやつを持つ手を外側一杯に広げた状態で始め、目を見たら名前を呼び褒めながら手を内側に縮めていく。一回目は褒め言葉はひとつだけにする。
- ② その際犬が目を逸らすと手を止めて沈黙し、目を見たらまた名前を呼びひとつだけ褒め、手が体の正面に戻ったらおやつをあげる。
- ③ 段々褒め言葉を長くしていく。

Step 4

Movie



- ① おやつを離れたところに置き、アイコンタクトができれば、「ぷーちゃんおりこう！、OK」と言って犬を連れおやつのところ行きおやつをあげる。
- ② その後は「ぷーちゃんおりこう！かわいいね！おりこう！、OK」と褒め言葉の部分を長くしていく。

※このやり方はアイコンタクトを一旦切ることと、おやつ先延ばしを学びます。

Step 5

Movie



- ① 周りで手をたたいたり、動いたりして、犬が目をそらしたら、名前を呼んでアイコンタクトができれば褒めておやつをあげる。
- ② そのあとはこれまでと同様に褒め言葉を長くしていく。

ポイント

- 何回か繰り返し意欲があるうちに終了する。でないとききってしまう。
また最後は成功して終わるようにする。そのため褒め言葉も短めのフレーズにして成功へのハードルを下げる。
- 1～5は一週間ずつ順番に、できなくなったら簡単なことに戻す。
- できるだけ成功に導くように、名前を呼ぶ声や褒め言葉にテンポやリズムを持って対応する。
- ほめ言葉を長くしていくとき、言葉につまらないように。同じ言葉のくりかえしでも声のトーンを変えればOK

しつけの発展“アジリティ”

しつけの発展としてのアジリティ競技の様子を動画でご紹介します。

今回競技をみせてくれたのは、OPDES主催 A-1 in 埼玉 秋ヶ瀬公園に参加したアフロちゃんです。

Movie



たくさんの犬や人の見る中でタイムを競います。

ハードルを落としたり、順番を間違えてしまうと失格になります。

最後に…

しつけはかなり難航するだろう…と思いきや、動画でもわかる通り、わりと早くに習得できました。

理由として、このしつけがアイコンタクトをすることを目的としていて、なるべく成功するように考えて構成されていることが考えられます。

またプーが食いしん坊なこともプラスに働く、としつけ教室の先生もおっしゃっていました（笑）。

この調子で、人と安全に楽しくすごせるしつけをどんどん学んでいってほしいと思います。



● 取材協力

しつけ教室：なべはまり 看板犬：やくもくん

アジリティ大会主催：OPDES

アジリティ参加：あふるちゃん



ドイツの動物園 訪問記！

文・撮影 / 小谷幸穂

ドイツのベルリンにある、ベルリン動物園に行ってきました！
ベルリン動物園は、ビルやショッピングセンターが並ぶ都会の中心部にある、約33ヘクタールもの大規模な動物園です。わかりやすく言うと、日本の上野動物園は14.2ヘクタールですので、その約2倍です！

このベルリン動物園は、1844年にドイツで初めてできた歴史ある動物園で、18600頭以上もの動物が暮らしています。なんとといっても、動物の種類が約1400種類と世界トップレベルの多さなのです。

ちなみに上野動物園では、約508種類の動物がいます。比較すると2.5倍以上の種類が多さですね！



● ベルリン動物園の人気のひみつ

平日にもかかわらず、多くの来園者でにぎわっていました。観光客だけではなく、地元の人にも愛されてる動物園なのです。

そんなベルリン動物園は、数々のスターを生み出してきました。例えば、ホッキョクグマのクヌートは、その愛くるしい姿と人工保育により日々成長する姿が話題となり、人工保育を担当した飼育員とともに大スターとなりました。クヌートブームはドイツだけにとどまらず、世界的に有名となりました。

また、ジャイアントパンダの展示に力を注いでいた動物園であることでも有名で（現在はいません）、バオバオはドイツの動物園で最後のジャイアントパンダとして人気者でした。

他にも、サイ、ゴリラ、カバなどの動物が人気で、繁殖において高い実績を誇っています。後ほど説明しますが、ベルリン動物園には、動物が暮らしやすい工夫が多いなど、動物福祉が充実しています。繁殖成績が良いのは、環境の良さや飼育の質の高さが影響しているのかもしれませんが。

動物愛にあふれるスタッフと地元の人と一緒に歩んできたからこそ、ベルリン動物園の魅力はたくさんあるのです。

● ここが魅力！ベルリン動物園

ベルリン動物園は、都心にあるにも関わらず、規模が大きく自然が多いです。動物が展示されていない部分も緑が多く、森の中を散歩している気分になります。

そして、多くの種類の動物がいるだけでなく、一つ一つの動物のスペースが大きいのです。

その動物のスペースには、様々な工夫がされています。動物の生息地や性質に合わせた植木や遊具、隠れる場所などが充実しています。



動物が展示されていない場所も緑がたくさん♪
森の中を歩いているみたい

次の写真は、アルプス山脈に生息するヤギの一種「アイベックス」の展示場です。生息地や性質に合わせて大きな山と広いスペースが用意されていることがわかります。広いだけでなく、見晴らしも良いので、動物を観察しやすくなっています。



動物の展示場は驚くほど清潔で綺麗なのですが、動物の展示場以外にも、園内では植木や花が綺麗に管理されています。獣医や飼育員だけではなく、多くのスタッフがこのベルリン動物園の魅力を作り上げていることがわかります。



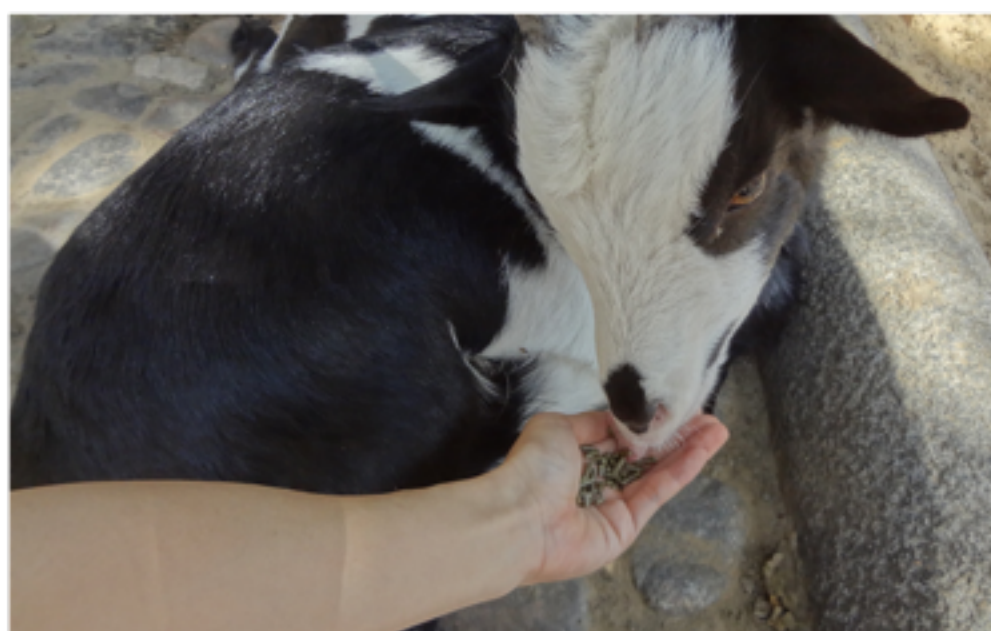
おしゃわで散歩するだけでも楽しめます

● 大人も子供も楽しめる！

ベルリン動物園には大人も子供も多く、客層はバラバラなのです！

ふれあい動物園も充実しています。約50円程度のお金を入れるとヤギやウマ用のペレットが出てくる自動販売機が設置されており、来園客は自由に動物に餌をあげる体験をすることができます。

私も実際に餌やりを体験してみました！ 動物は柵の中と外を自由に行き来できるようになっており、一休みしたい動物やお腹がいっぱいの動物は、人から離れられるような工夫がしてある事に気がつきました。来園者の好きなときに餌やりを体験でき、動物も好きなときに餌を貰いにいけるため、効率のよいアイデアだと思いました！



また、園内には、動物園という事を忘れるくらい多くの大きなアスレチックが設置されています。このアスレチックは海賊船をイメージしたもので、6メートルもの高さがあります。迷路や滑り台などもある大規模な海賊船で、子どもたちは海賊気分を楽しめる、名物のひとつになっています。

飼育員によるトークコーナーも大人気で、大勢の家族連れでにぎわっています。動物の説明だけではなく、それぞれの動物の性格についてなどタイムリーな動物の様子も知ることができます。餌をあげながら説明するコーナーもあり、至近距離で餌を食べる動物を見ながら解説を聞くことができます。



写真はアシカショーです。息ぴったりの飼育員さんと泳ぐ姿に多くの歓声が上がります。水族館にいるような気分になります。

次の写真は猛獣館です。ここでは、時間になると室内で骨付き肉を貰います。至近距離で肉を食らう猛獣は迫力満点です。こちらのコーナー也大混雑しており、みな猛獣に釘付けでした。



テラス席付きのレストランも充実しており、ベルリンの料理やビールを楽しむ事も魅力の一つです♪

ちなみに、ベルリンから離れたバイエルン・ミュンヘンの動物園も訪れましたが、園内にはなんとミュンヘン名物のビアガーデンがありました♪

また、ベルリン動物園には、別料金で入れる水族館も隣接されています！一日居ても時間が足りません！



水族館入口

最新情報！話題の展示施設！

鳥の展示施設「Die Welt der Vögel」は、この夏新しく建設されたばかりで、この施設が凄いと大きな話題を呼んでいます。元々あった鳥の展示施設よりさらに大きく、多様な植木などを使い、鳥の動きを最大限に引き出せるように展示場の作りが工夫されています。



一つ一つの展示場が広く綺麗。それぞれの鳥の生息地にちなんだ植物にもこだわりのあります！



柵なしで鳥を見ることが出来ます！

何と言ってもこの施設の魅力は、来園者をそれぞれの鳥の生息地に旅しているかのような気分にならせてくれる事です。アメリカ、オーストラリア、アフリカ、アジアとそれぞれの大陸ごとに施設内が区切られています。その他に、来園者と同じ空間で鳥が自由に飛び交う巨大な展示場もあります。ここでは1階と2階に分かれているので、高いところからも鳥を見ることができるよう工夫がなされています。

● 世界に発信！ベルリンの動物園

ベルリン動物園、いかがでしたか？ 広さ、動物の多さや展示方法の工夫や園内の雰囲気など目を見張るものがたくさんありました。ベルリン動物園の話題の動物、動物園の裏側、飼育員さんによる飼育の様子は、「Panda, Gorilla & Co.」というドイツの人気テレビ番組で放送されています。この放送はインターネットでも観ることができます。ドイツの動物園に行った気分を味わえるはずですよ♪そしてヨーロッパ旅行の際は、緑と動物愛のあふれるベルリン動物園をのぞいてみてはいかがでしょうか？



人気者のサイ♪こっち見てる・・・よね

また行きたい！ベルリン動物園

私は中学・高校時代と、ベルリンに在住していました。そのころ、ベルリン動物園に何度も遊びに行きました。高校時代の単位の一環で飼育実習をした経験もあるため馴染み深い場所です。何度でも足を運んでしまう魅力がベルリン動物園にはあります。全ての動物を見て回るだけでも1日かかってしまいますが、展示パネル一つ一つを読むのも面白くて、動物の豆知識や地球温暖化による動物の絶滅危機について知ることができます。展示場には環境エンリッチメントも多く見られ、動物の生態が良くわかります。動物ごとに植えられている植物がそれぞれ違うため、動物の生息地でその動物をみているかのような気分になれるところが私はとても好きです。動物が隠れることができる場所があるのはもちろん、動物が人と近い場所と遠い場所を選べるくらい広い展示場なので、ストレスの少ないリラックスした動物をみることができ、とても癒されます。

ベルリン動物園を始め、動物の話題はベルリンのメディアでも取り上げられる事が多く、地元の人たちの動物愛を感じることができます。そんな地元の人々の支えになっているからこそ、こんなに魅力的な動物園なんだと個人的に思います。さらに、動物園だけでは得られない情報は、ベルリン自然史博物館でも知ることができます。クヌートなどベルリン動物園の元スター達は剥製としてここで展示されており、いつまでも歴史を残しています。ドイツ最古の動物園でありながら、今もなお進化しつづけるベルリン動物園に、また近いうちに行きたい気持ちでいっぱいになりました。





動物と触れ合うこと

文・撮影 / 折田琴美



みなさんはポニーに触ったことがありますか？小さな身体、丸い大きな瞳、柔らかい毛並み…まだまだ魅力はたくさん。今回は、ポニーとはどんな動物なのか、また、ポニーを導入している青少年教育団体の(財)ハーモニィセンターで活動している私が感じたことについて書いていきたいと思います。

ポニーの秘密

① ポニーと馬の違いって？

ポニーとは体高が147センチ以下の馬の総称であり、種類として馬と違いがあるわけではありません。犬でいうと大型犬と小型犬のようなイメージです。

温厚な性格であり、乗馬以外にも農耕、運搬などにも使われます。

②馬は鼻呼吸

馬は鼻で呼吸をします。
また口から息や物を吐き出すことができません。



③馬の視野は350度

馬の目はほ乳類の中で1番大きいと言われています。視野は広く、真後ろを除いた350度を見渡すことができます。また単眼視といって左右の目で別々のものをみることができます。
これにより、肉食動物をいち早く見つけ逃げるのできるのです。

④馬の耳は気持ちを表す

馬は耳で感情を表します。
耳をたててじっと見ているときは、何かに興味や注意を示しているとき。耳を横に向けているのは、リラックスしているとき。逆に耳を後ろに伏せているのは、怒っている、興奮しているとき。
よく観察することで馬の感情を読み取ることが出来るかもしれません。



馬は耳を横にしていてリラックスしているのがわかります。表情をみてもなんか気持ちよさそうですね

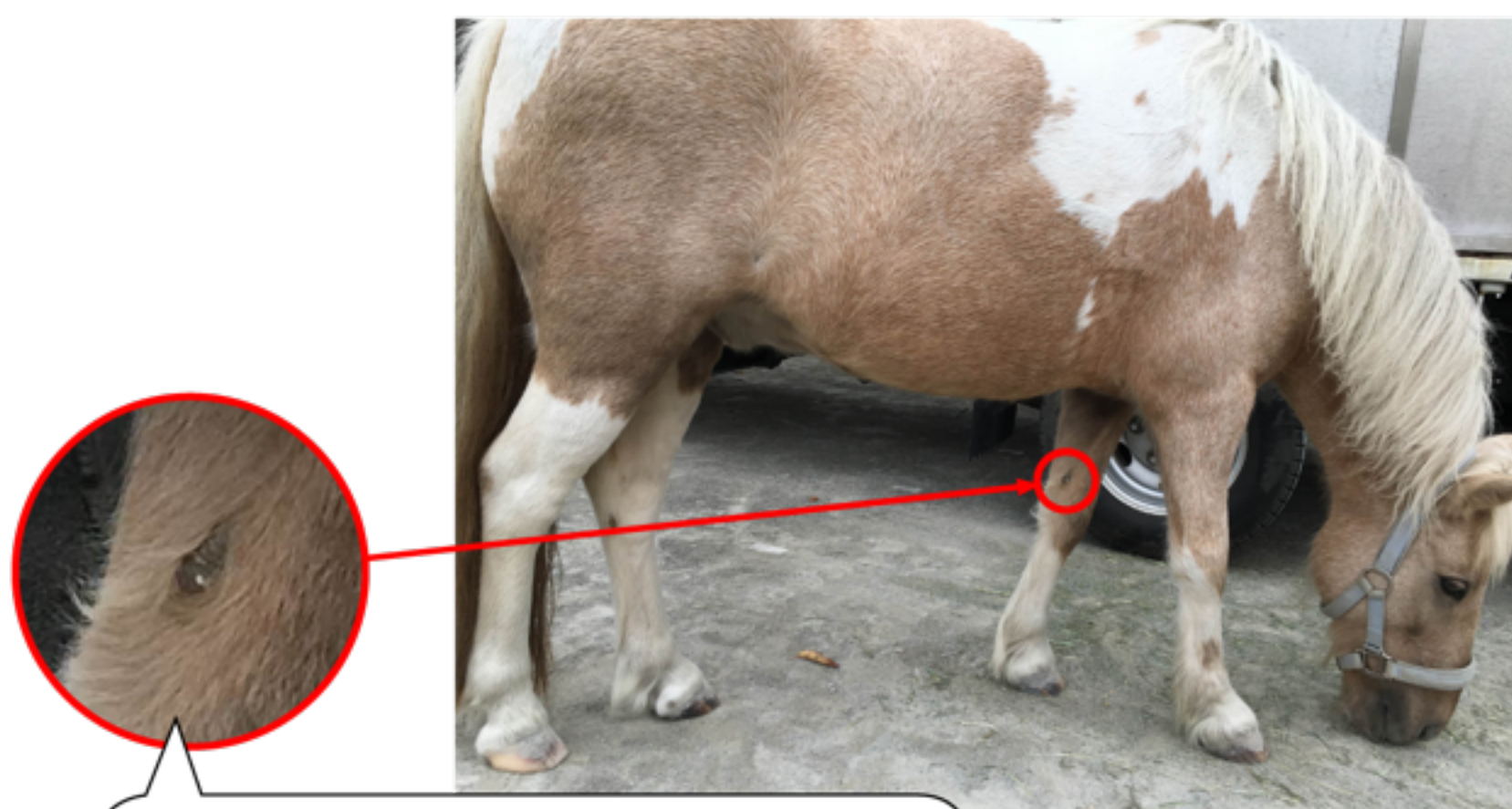
⑤馬は甘い食べ物が大好き

馬が好きな食べ物とって最初に思い浮かぶのはニンジンではないでしょうか？

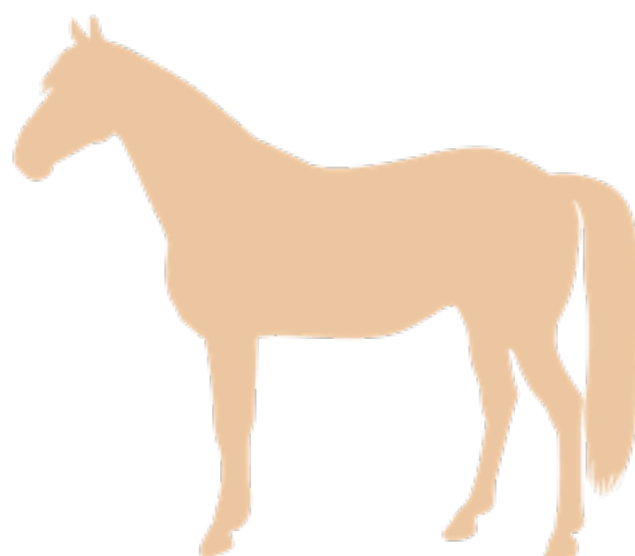
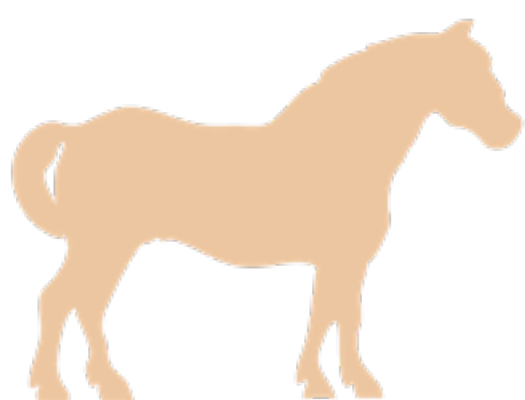
もちろん人参も好きですが、リンゴやスイカ、とうもろこしなどの甘い食べ物が大好きです。その他にもハチミツ、角砂糖なども大好物です。

⑥馬は中指でたっている

馬は人間でいうと中指一本で立っています。その他の指は退化してしまいました。ちなみに親指の名残りは夜目といい、足の内側にあります。



真ん中の毛の無い部分が夜目です



ハーモニィセンターでの活動を通して

わたしはハーモニィセンターで大学生ボランティアとして子供達と一緒にポニーキャンプにいたり、被災地の幼稚園などにポニーを連れて訪れる活動など、子供達と動物が関わる様子を間近で見てきました。今回はその活動を通して感じた、他の動物にはないポニーのよさ、ポニーが子供たちにとってどういう存在であるか、ポニーと関わることでどういう変化があったのかなどを話したいと思います。

乗る

まず他の動物にはないポニーのいいところは「乗れる」ということ。乗るだけで楽しかったり、大きな動物を自分の指示で動かせた時は達成感や充実感、征服感などを感じます。

馬の温かさ

また馬の体温は38～38.5度と人間よりも少し高めになります。そのため触ってみるとその暖かさがよくわかると思います。緊張していた子も馬をさわると、その暖かさにふれることでリラックスした表情になることがあります。

障がい者乗馬では軽乗鞍という人の身体が直接馬に触れるような鞍を使います。その理由は車椅子という普段温かみを感じる事の無い人たちに直接馬の揺れや温もりを感じてもらうためなのです。

越えづらく、超えやすい壁

大人から見たら小さなポニーでも、こどもからみたとっても大きい。乗るだけでも、触るだけでも一苦労。なかなか触ることすらできない子もいます。でもちょっと勇気を出して

頑張ったら、意外と出来るようになります。大きな馬と違い小さなポニーだからこそ、ちょっと頑張った時に一人で乗れるようになったり、一人で操作出来るようになります。そんな越えづらく、超えやすい壁がポニーだと思います。

● もっと動物達とふれあう場を

私は子供が馬と接する時に、ただ触るだけではなく、この触れ合いが馬がいないところでも生きるようにと意識しています。

まずは楽しい。楽しく乗れるように声をかけてあげたり、馬の可愛いところを教えてあげたり。その次は大きな馬に触ったり、乗ることで一人で出来たという達成感を感じてもらえるように。また頑張ったからさっきよりも上手くなったなど、頑張ること、一歩踏み出すことで出来るようになるという頑張る気持ちや頑張る楽しさに気づくきっかけになったらと思っています。

馬との触れ合いの時は、色んなところを触ったり見せるようにしています。

暖かい、毛が柔らかいなどの馬の温もりを感じてもらうだけではなく、

「人と比べてどうかな？人間の目は前についてるけど馬は横に付いてる。なんでかな？」

考えながら、馬は人間と似てるところがいっぱいあるけど少しずつ違う。でも同じ生き物だということ。

また「大きさはどうかな？小さい馬もいるけど大きな馬もいる。皆も同じ歳だけど大きい子がいたり小さい子がいたり、色んな子がいるよね、いろんな子がいていいんじゃない？」人も動物も大きさや性格は様々であり、それにはそれぞれの良さがありそれを認めるということ。

子供も色々なことを馬から感じると思います。他の友達と話すのは苦手なのに馬にはやさしく話しかけられたり、馬の上では弱音を吐かずに何度もできないことに挑戦したり。動物を介入させることのメリットは子供が自分で考えようとするところだと思います。「なんでこの馬は動いてくれないんだろう」「何を怖がってるのかな」「どこを触ってあげると喜ぶかな」

大人から言われなくとも、子供たちは自分からたくさんのことを動物から感じ、知らぬ間に学んでるだと思います。

私はハーモニィセンターで活動する中でたくさんの子供達に出会いました。動物がいるからこそ見えた笑顔。子供の時の素敵な経験は大人になってもきっと忘れず、心に残ることでしょう。だからこそもっと多くの子供達が動物と触れあい、感じる、そんな環境を作ってあげられるよう私はこれからも頑張っていきたいと思います。



● 取材協力

(財)ハーモニィセンター



動物介在活動 ～人と犬～

文・撮影 / 鎌田実希

動物介在活動をご存知でしょうか？ 全く知らない方、もっとよく知りたいという方、様々だと思います。素晴らしい可能性を秘めているこの活動について、より多くの方に伝えたいという気持ちからこの記事に取り組みました。

動物介在活動（Animal Assisted Activity 通称 AAA）は正規の医療・教育等の型にはまらない活動で、より緩やかな相互作用をもたらします。人と動物のチームがボランティア活動として運営することが多く、主に訪問活動が中心となります。対象者の生活の質を向上させるため一定の基準を満たす動物を介入させて意欲を引き出し、教育的・レクリエーション的、または治療的な便宜をもたらす機会を与えます。

これは、動物介在教育・療法の第一人者である的場美芳子先生から教えていただいた動物介在活動の定義です。先生は動物介在教育・療法学会の副理事長を務めておられ、本校でも動物介在療法論の講義をしてくださっています。先生の講義を受けて動物介在活動にさらなる興味を持った私は、今回先生が活動されている仙台まで同行取材させていただきました。

動物介在活動（AAA）を取り入れる側、体験する側、実施する側、それぞれがどのような思いを持ち、それぞれがどのように重なり合っているのか、インタビューを通してその姿をつかんでいきたいと思っています。

動物介在活動を取り入れている宮城県のデイサービスセンター「あったかいご東向陽台」の施設関係者様のおはなし

高齢者の方と専門学校の学生さんが連れて来た犬のふれあいが行われました。今回で3回目だそうです。ふれあい中は高齢者の方だけでなく、施設の方の笑顔もとても印象的でした。

Q 活動を取り入れようと思ったきっかけは何ですか？

A 動物が好きだけれど触れる機会がないため、動物と接する機会を持ちたいと思いお願いしました。また、高齢者の方の癒しの一つとなればという思いがありました。

Q 活動を取り入れて感じたことは何ですか？

A 犬と接したことでとても柔らかな笑顔で楽しんでいたことがとても嬉しかったです。しかし、中には犬が苦手な方もいらっしゃるのでその対応が難しいと感じました。また、私どもの場合、午後の入浴の合間に活動を行うので利用者の方がバタバタしてしまうところも難点ですね。

Q この活動の魅力を他の施設にお伝えするとしたら？

A 高齢者の多くの方に、とても柔らかな笑顔で喜んでいただけます。また、専門学校の生徒さんと接することも、普段と一味違う楽しみの時間、癒しの時間となっています。



Q 今後、この活動に期待することは何ですか？

A 現在、年に2回のご協力をいただいております。可能ならさらに回数を増やしたいです。また、他の曜日にも実施していただけると嬉しいです。

「あったかいご東向陽台」で動物介在活動を体験した利用者様のおはなし

前回と同じ曜日に実施されたため、この活動を経験されたことのある方々でした。ふれあい中に利用者様の元へ行き数名の方に声を掛けて、質問というよりはお話しをしながら感想をお聞きしました。ふれあいが始まるとほとんどの方が穏やかな笑顔をされていて、部屋の雰囲気是和やかに暖かくなったように感じました。

多くの方から、元気になった、可愛い、癒される、来てくれて嬉しい、来るのが楽しみ、などプラスの声をお聞きしました。また、最初は怖かったが見ていると可愛いと思えるようになった、などふれあい中に心境が変化した方もいました。犬や猫を飼っている方、飼ったことがある方が多く、セラピー犬の大人しさに感動されていました。ただ、犬に関心を示されない方も中にはいらっしゃいました。お話を聞くと元々犬が苦手とのこと。猫に来てほしいとおっしゃられていました。そこで、今回取材にもご協力いただいた専門学校アニマルインターカレッジの先生にお伺いしたところ、残念ながらセラピーに適した猫はなかなかいないため、学校でもセラピー猫は飼っていないそうです。他にも、膝の上に犬を乗せたら、犬が怖がっていましたと少し残念そうにお話しされる方もいました。こういったことは活動に携わる方々も課題としているようです。専門学校の学生さ



もセラピー猫は飼っていないそうです。他にも、膝の上に犬を乗せたら、犬が怖がっていましたと少し残念そうにお話しされる方もいました。こういったことは活動に携わる方々も課題としているようです。専門学校の学生さ

んも後述の質問に対する回答で、それぞれの利用者の方に合わせて反応の重要性について感じたことをあげています。

専門学校アニマルインターカレッジの学生さんのおはなし

アニマルセラピーコースの2年生で、週に1回実習として福祉施設や幼稚園で活動を行っているそうです。学校で一人一頭担当犬を持ちトレーニングをされています。そして、その犬と一緒に施設を訪問しハンドラーとして活動を行っています。皆さん生き生きと活動されていて、その姿がとても素敵でした。



Q アニマルセラピーを学びたいと思ったきっかけは何ですか？

A 中学生の時、祖父母の家に飼っている犬を連れて行きました。片麻痺がある祖父ですが、普段動かそうとしない麻痺側の手を動かして犬を触っていました。この場面に心を打たれ、他の方にもアニマルセラピストとして働きかけたいと思うようになりました。

Q ハンドラーの魅力は何ですか？

A 施設に犬を連れていくと、利用者様が「わんちゃん」と言って喜んでくださる事です。また、感謝していただけると自分が成長できたことを実感しやりがいを感じることができます。同じ施設を再度訪問した際に利用者様が前回のことを覚えてくださったときは、印象に残る活動ができたことをとても嬉しく思います。

Q 活動の中で大変だったエピソードはありますか？

A 犬が好きだけど怖い方にどう対応するかなど、その場に合わせた対応を考えることが難しいです。認知症の方がいらっしゃる施設ではより臨機応変な行動が求められます。常に視野を広げ周りを見て行動しなくてはいけないと感じています。

Q 活動の中で心に残っているエピソードはありますか？

A 普段は表情に変化がなく無反応な方が楽しかったよ、また来てね、と笑顔になってくれたことです。活動後、施設の方がこのような普段の様子との違いを教えてください、それを聞いたときはとても嬉しかったです。

Q 活動を広めるためにどのようなことを伝えていきたいですか？

A アニマルセラピーのハンドラーとは、犬のハンドリングをすれば良いと思っていましたがそれは違いました。利用者様にはそれぞれ個性があり、臨機応変に対応する力やコミュニケーション能力なども必要です。実際にやってみないと分からないことが沢山あるので、ハンドラーに興味がある方はぜひ活動に参加していただきたいです。

Q 今後の課題や目標は何ですか？

A 利用者様にこの活動を楽しんでいただき、私も楽しみながら行っていきたいです。また、利用者様と犬の安全をしっかりと見ながら活動を行っていきたいです。そして、この活動を広めていきたいです。

犬のトレーニングもされているセラピー犬ハンドラー、
佐藤美月さんのおはなし

直接お会いしてインタビューをすることはできませんでしたが、質問に答えていただきました。

Q ハンドラーになろうと思ったきっかけは何ですか？

A 元々、犬と人両方に深く関われる職業があればいいな
とっていたので、ハンドラーはまさしく思い描いて
いたものそのものでした。

Q ハンドラーの魅力は何ですか？

A 犬と人が楽しそうな様子を見ることができるところで
す。犬自身も活動を楽しめていなければ何も意味があ
りません。ハンドラーをしていると自分の犬と対象者、
両方の様々な変化を間近で見ることができます。その
反応を見て臨機応変に動くことは大変ですが、とても
やりがいを感じます。

Q 活動の中で大変だったエピソードはありますか？

A 犬のストレスをいち早く察知することです。どれだけ
活動を求められていても、犬の些細な体調の変化、ま
たは環境の変化など
によるストレスを抱え
たままでは楽しむこ
とができません。犬が
万全な状態で楽しめ
るようにすることを
常に心がけています。



Q 活動の中で心に残っているエピソードはありますか？

A 手を動かすことが難しい、声を出すことが難しいと言われていた方が、犬を触るために手を動かし、犬の興味をひくために声を出してくれたことです。この他にも、犬のことを思って行動してくれる対象者が多く見られました。

Q 活動を広めるためにどのようなことを伝えたいですか？

A セラピードッグのトレーニング方法を伝えていきたいです。トレーニングも、犬が楽しんでいることを前提に行い決して強要はせず、犬の個性を活かしてトレーニングをしていきます。できないことを無理矢理ではなく、できることをどう伸ばしていくのかを考えることもハンドラーとしてとても大切なことになっていくと思います。

Q 今後の課題や目標は何ですか？

A 動物介在教育（AAE）、動物介在活動療法（AAT）、動物介在活動（AAA）を多くの人に知ってもらうことが夢です。いずれは伝える側の立場になるために、トレーニングの方法や活動の仕方などをたくさん学び、これから動物介在活動に興味を持った人に指導できるようになりたいです。



宮城県のボランティア団体で活動されている
動物看護師、渡邊圭子さんのおはなし

犬と飼い主の絆が信頼関係を築く、というお話がとても印象的で刺激的でした。大切なことは、犬自身で考え行動してもらうことだそうです。求める行動をしてくれるまでじっくり待つ、そして求めた行動をしてくれたときは沢山褒める。難しいことだとは思いますが、ここから確かな絆が築かれていくということに感銘を受けました。

Q これまで苦労したことは何ですか？

A ボランティア発足時は、活動を行政に認めてもらうことでした。行政と連携して活動しているため、施設側からオファーが来てもご理解いただけないとスタートさせることが難しいものもあります。行政と信頼関係を築き、ご理解・ご支援いただいて活動するまでが大変でした。また、人材の確保と育成も大変です。原則として、本会のボランティア活動に参加するための費用は各自で負担しています。それが重荷になってしまうことも一つの原因です。特に3.11の震災後は経済的に余裕がなくなっている方も多く、重要な課題となっています。活動には犬の適性も大事ですが、一緒に参加するために犬をどこまで深く理解し、また犬と根気よく向き合っていくかが重要です。飼い主さんの考え方と努力次第だと思っています

Q これまで嬉しかったことは何ですか？

A 犬が自分で考え自主的に行動してくれたときです。病気の方々を訪問した際、真っ先に重症の患者さんの元へ歩み寄り、寄り添ったことがありました。また、

対象者様の変化を見て施設の方が喜んで教えてくださったときもとても嬉しいです。変化は飼い主さんにも見られます。入会当初、あまり笑顔のなかったボランティアの方（飼い主さんやスタッフ）が、活動を通していくうちに笑顔が増えていきました。それは犬のためにもとても良い変化です。この活動が影響を与えるのは、対象者様だけではありません。施設の方そしてボランティア影響を与えるのです。

Q この活動の導入を考えている方々、また携わっている方々に伝えたいことは何ですか？

A この活動の先には『地球上に暮らす人と動物との共生』という大きなテーマが流れていることを忘れていただきたいと思います。地球上には人間だけが暮らしているわけではありません。犬と一緒に暮らすということは、違う種の動物も人と共に暮らしているんだということの象徴でもあります。また、その関係は幅広く、奥深く、犬とのいろいろな関わり方・楽しみ方があります。ぜひ、人の最良の友である犬を飼っていただきたいと思います。そして良好な関係を築き、それを周りの人にも知っていただく・・・ここから生まれる幸せの輪を広めていただきたいと思います。実際にやってみることでこの活動の素晴らしさをより理解できるようになると思います。ぜひ、動物介在活動を始めてください。そして長く続けていってほしいです。

Q 今後の課題は何ですか？

A 活動は犬（動物）を介して行いますが、根本は人対人の活動です。今までは、私のような動物関係者が中心に実施してきた活動が多いかと思いますが、人の専門

家とタグを組んで進めていくべきだと思います。例えば、対象者様に対して共感することは良いことですが、心が近づきすぎてしまうと同じように傷ついたり、怒ったり・・・と、ボランティアしている人の心が苦しくなり続かなくなることもあります。このようなことが起きないように、チームで向き合っていくことが大切です。特に人間の医師、精神科領域の専門家の方のサポートが必要だと感じています。



的場美芳子先生のおはなし

冒頭でもご紹介した、本校で動物介在療法論の講義をされている的場先生にもインタビューをさせていただきました。今回、多大なるご協力をいただき、先生のおかげで様々な方にインタビューすることができました。

Q これまで苦労したことは何ですか？

A 近年、家庭犬は増えていますが、活動に適応しているハンドラーや犬が少ないことです。現在のハンドラーはそれぞれのドッグトレーニングに対する考え方があり、考え方に違いがあります。そこで、統一した知識を持ち、犬をきちんと扱える人を増やすため、現在学生の育成に力を注いでいます。活動を行うに当たって発言する際は、研究を通して実証された裏付けを

持って初めてこの活動を信用してもらおうという、これまでの過程も大変でした。また、利用者様に合わせたプログラムを考えることも大変でした。毎回同じ内容では飽きてしまいます。どのようにしたら楽しんでもらえるのか、目的に合わせて常に新しいレクリエーションを考えなくてははいけません。アメリカは日本と違って対象者のバックグラウンドや病状に合わせてプログラムを考えることで対価をもらえます。充実した活動を行うには時間と費用もかかるのです。

Q これまで嬉しかったことは何ですか？

A 表情の変化が少なかった方に変化が見られたこと、高次機能障害で言葉遣いが悪かった方が犬に対して上品な言葉を使っていたことで、施設の方にも笑顔が見られました。対象者だけでなく、周りの方々にも良い影響を与えられたことが嬉しかったです。

Q この活動の導入を考えている方々、また携わっている方々に伝えたいことは何ですか？

A 患者さんや子どもさんなど、対象者の心にふれることができなければセラピーは成り立ちません。活動を通して、動物と人に寄り添い、心を通わせることが大きな魅力です。嫌なこと・苦手なことが動物の存在により言葉を使わなくてもできるようになるなど、子どもさんから高齢者まで様々な方に動物は大きな影響を与えます。また、ハンドラーの方にはとにかく犬に沢山の愛情を注いでほしいです。そもそも犬はオオカミから進化をとげてきました。原点に戻ってみれば、人間が餌を与え、そこから人間に寄って来るようになったのです。人間の傍が安心できるから犬は誕生したの

です。芸ができなくても構いません。従わないことがあってもいいのです。そこがその犬の可愛らしい一面でもあり、人はそれを見て癒しを感じるでしょう。その犬の本来のキャラクター、個性を武器にして、人間が素晴らしいところを引き出してあげてください。人間から寄り添っていくことが大切なのです。人間が寄り添えば自然と犬たちも寄り添い、能力を発揮してくれるはずです。人間が大好きで愛嬌があれば特別なことは何もありません。



インタビューを通して

それぞれの視点から見て、改めて動物介在活動の素晴らしさを感じました。特に今回の課題を取り上げたきっかけは、利用者様が実際にどのような反応を示されるのか、その場の空気を生で感じ犬と人がもたらす影響を自分の目で確かめてみたいという思いでした。利用者様の中には犬が苦手な方もいらっしゃいました。ですが、犬と一緒に訪問した方とお話をするきっかけとなり、動物に癒されることとは別に普段には無い刺激を得ることができるのではないかと思います。実際に高齢者の方にインタビューしたときは楽しそうに話される方が多く、いつもとは違う相手と話せることも楽しんでいただけているのかな、という印象を持ちました。

私の祖父もデイサービスに通っています。以前に動物介在活動の話をしたことがあり、通っている施設にも動物が来たらいいなと言っていました。今回、施設の方にもインタビューを行ったのは他の施設の方がこの活動を取り入れる

きっかけになれば、という思いがありました。また、少しでも動物介在活動に興味ある方がやってみようと一歩踏み出せる、後押しができる記事、さらにはこの活動をあまり知らない方々に知っていただける記事になってほしいという思いもありました。小さなきっかけが少しずつ広まって、動物介在活動に興味を持っていただける方が増えると大変嬉しいです。

犬と飼い主の関係についても印象的なお話が多かったです。自分の犬に愛情を注ぎ、良いところを引き出し、個性を尊重すること、犬と飼い主の良好な関係から生まれる幸せ、それを見て和む幸せ、飼い主、犬、そしてその周りにいる人に広まる「幸せの輪」という考え方がとても素敵だと感じました。普段の日常の中でもこの輪が広がっていくことを願っています。

● 取材協力

あったかいご東向陽台施設関係者様

あったかいご東向陽台利用者様

専門学校アニマルインターカレッジ学生様

佐藤美月様

渡邊圭子様

的場美芳子先生







嫌い！と言われないわんちゃんになろう

文 / 鈴木かりん

イヌの社会化期は4～13週齢と言われており、特に犬社会のルールを知るには、この時期に母犬や兄弟犬と生活することが重要とされています。現在、動物愛護法では8週齢に満たないイヌ、ネコの販売、展示が禁止されています。そのため、一般的に仔犬が家庭に来るのは8週齢以降です。イヌの幼稚園のように他のイヌと過ごすことのできる環境を与えることで、社会化に良い影響を与える（兄弟、母犬との生活の代替となり得る）のではないかと考え、取材を行いました。

今回お話を伺ったのは「パッピーナようちえん」の園長である鳴海治先生です。「パッピーナ幼稚園」は生後19週齢までの仔犬を中心としたしつけ教室で人気のある幼稚園です。健康チェック、トイレの練習、プレイタイム（わんちゃん同士の遊びの時間）の様子も見学させていただきました。



鳴海先生のお話しの前に…

● 社会化って何？

人がある社会に所属するとき、社会の文化、価値、ルールなどを知ることで、その場での適切な行動を学習、獲得していくことです

Q 社会化とはどのようなものと考えられていますか？

鳴海先生 『自信をつけることによって、不安や興奮を抑制することができるようになることと考えています。あらゆる状況を体験し、それらが安全で危害を加えられることは無いと知ること、それらの状況下で取るべき行動を覚えることで、自信がつくと考えています』

パピーナの教室では、取材中常に生活雑音や拍手、花火や雷、お経の音までもが流れていました。楽しい時間にあえて環境音を流すことで、それらの音を怖がる必要がないことを学習するそうです。

Q 社会化を促すために、レッスンではどのような点を重視しているのですか？

鳴海先生 『パピーナは基本的に、社会化しながらのしつけをメインとしています。しつけで大事なものは、あらゆるシチュエーションでの振る舞いを教えることです。このとき、“～してはダメ”では無く、“～するべき”と教えることが大事です』

正しい行動を教えられる前にダメ！と叱られてしまうより、教えてもらったうえで褒められるほうが嬉しいですね。わんちゃんも同じです。これはお家でのしつけでも気を付ける点かもしれません。





社会化について、飼い主さんが気を付けるべきこと、できることはなんですか？



『ペットのしつけができているかどうか、判断するのは飼い主では無く第三者です。特に動物が苦手、嫌いな人がどう思うかが大事になります。動物が苦手な人は国内人口の3割前後、3600万人ほど存在します(※1)。イヌの飼育頭数は991万頭(※2)なので、イヌよりも動物が苦手な人の方が多いということです。つまり、イヌ嫌いを増やさないこと、嫌われるイヌにならないことはとても大事なことになります。』

しつけができているかどうかの基準の1つとして、避難所に連れていけるかどうかがあります。また、脱走した際、保護を円滑に行うためにも他人に対しフレンドリーで、触られても大丈夫であることも重要です。

パピーナでは、まず飼い主さんに意識を統一してもらうことから始めます。先ほど述べたように、しつけができているかどうか決めるのは飼い主では無くイヌが苦手な人を含めた他人です。飼い主はペットの管理者であるという意識を持ち、責任を持たなければなりません。これは人間の母子の関係によく似ています。子供であっても同じで、小学校高学年にもなれば、子供にもく自分はペットの親である>という意識を持つよう求めます』

※1 内閣府 ※2 ペットフード協会

「動物嫌いの第三者」は確実に存在しますが、動物が存在することが当たり前となっているコミュニティでは忘れがちなことです。動物好きにはなんとも無いことでも、嫌いな人達にはとても重要で、嫌なことかもしれません。第三者がどう思うのか、自分達の大切な家族が彼らに嫌な思いをさせて

しまわないか、気を付けることが出来るのは管理者である私達だけであることを忘れてはいけませんね。

Q 幼稚園、躰教室に通うことで、母犬、兄弟犬と過ごすことの代替になり得るかと思いますか？

鳴海先生 『イヌの心理面を考えれば、周りを敵ばかりだと思ってしまうよりも、仲良くなれた方が良いでしょう。そういった意味では、このような環境に置くことには意味があると思います。しかし、イヌと出会ったら静かに通り過ぎるというマナーを覚えることが重要です。また、母子分離に関しては、分離による影響について、正確な科学的データを得ることは不可能なので何とも言えません』

「周りのわんちゃん全てと仲良くなる必要はない、苦手な子とも問題を起こさず、やり過ごせることが大事」と言われ少し意外でもありました。ですが、確かに人間だって誰とでも仲良く、なんて無理な話です。お散歩中など他のわんちゃんとすれ違う際、挨拶したがつている、と人間側が勝手に判断して近づけていくことがあります。これもわんちゃんからすれば迷惑な話かもしれません。両方のわんちゃんの反応をよく見て、思い込みだけで行動しないよう注意する必要があります。



Q 通園前後でのわんちゃん、飼い主さんの変化はどのようなものがありますか？

鳴海先生 『わんちゃんは自信を持ち、状況ごとの対応を学習します。飼い主さんには、管理者としての意識を持ってもらうことはもちろん、健康チェックが出来るようになってもらいます。保定(※3)が出来る、心音を聴ける、などです。また、法規について、例えば電車へのわんちゃんの持ち込みなどについても教えます。どれも第三者に嫌われない、犬嫌いを増やさないために大事なことです』

※3 治療や検査の際、動物、人間どちらにとっても安全であるよう、動きを制限できるように支えることです

保定や心音が聴けるということは、体を触られることに慣れているということです。これらがスムーズに行えれば、病院などでも過剰にストレスを感じずにすむのではないかと思いました。

お話を伺って

今回お話を伺って、幼稚園や躰教室に通うことで、母犬や兄弟犬との生活の代替になるかどうかは簡単には結論付けられないと感じました。当たり前ですが、わんちゃん毎の個性が存在しますし、早期に母子分離した場合、しなかった場合を簡単に比べることはできません。

しかし、しっかりとしつけを行うことによって、いわゆる問題行動の発生はかなり抑えられるのではないかと思いました。ペットとして生活していく以上、人間社会のルールに従うことは大事です。そして、そのルールに則れているのかを決めるのは「第三者」であり、特に動物嫌いの方の見る目は厳しいものであるということも認識しておく必要がある

でしょう。

このぐらいなら大丈夫、うちの子は賢いから、いい子だから、と過信せず、常にこの第三者の視線を意識することが大事なのではないかと思います。自分達の大切な家族が動物嫌いを増やしてしまわないよう、気を付けることができるのはペットではなく飼い主なのですから。



● 取材協力

「パッピーナようちえん」 鳴海治先生



ピーターラビットと鳥獣戯画

文・イラスト / 永山正実

ピーターラビットの作者ビアトリクス・ポターの生誕150周年ということで、いろいろなところでピーターラビットを見かけることが多い本年。そして去年は東京で鳥獣戯画展が開かれ、話題になりました。日英それぞれの代表的な名作動物擬人化古典である両者ですが、同じ土俵ではあまり語られないように思います。国も年代も違う上に、鳥獣戯画の謎が多過ぎる、という点が難しいのだと思いますが、どんな結果になるかはさておいて好奇心のままに比べてみました。

● 作者について

鳥獣戯画

いつ誰がなんのために描いたのか不明です。絵仏師説、宮廷絵師説などいろいろありますが、前編と後編で絵柄が少々違うことから、複数の人間が描いたのではないかとも言われています。また、作者として有力視されている人物に「漫画の祖」と言われる鳥羽僧正覚猷(1053-1140)がいます。さまざまな仏画を描いた一方で、当時は「戯れ絵」や「嗚呼絵」と呼ばれた風刺の効いた戯画を描きました。仏教美術が発展する時代に描かれたこともあり、仏教色の強い内容になっています。

ピーターラビット

ビアトリクス・ポター(1866-1943)。厳しい家庭に育った女性で、同年代の子供たちとの交流を許されず自然と親しく触れ合って育ちました。きのこ研究や環境保護運動者



としての一面も持ち、人生の後半は農婦としてハードウィックという品種の羊の飼育に力を入れました。結婚や友人付き合いなどを親に制限されることが多く、彼女の秘密の暗号日記にはヴィクトリ

ア時代の価値観への反発が語られています。湖水地方を購入し、開発から守るナショナルトラスト運動に早くから賛同し、生涯貢献し続けました。

● 形態について

鳥獣戯画

甲・乙・丙・丁の4巻から成る絵巻物で、いわゆる鳥獣戯画としてみなさんが知っている擬人化された動物の絵は甲巻にあたります。乙巻では写生的な動物、丙巻では人物・動物絵、丁巻では略画風人物絵が描かれています。



絵巻は右から左にくるくると連続する物語です。欧米では左から右で視界を展開することが普通なので、絵巻はとても不自然に映るようです。また、鳥獣戯画は、通常の絵巻に存在する詞書(ことばがき)や、彩色が施されていないため、絵巻の中でもとてもミステリアスな存在です。

ピーターラビット

子供の手にも馴染む手のひら大で、彩色の美しい絵本です。

ポターが病床の男の子に送った絵手紙が元になっています。当時の本は装飾が多く、高価で大きい立派なものが主流でした。ポターはそんな常識を無視し、子供が手に取りやすい大きさがつ、手頃な価格にこだわりました。ポターの先見の明を物語るエピソードです。

● 読者対象について

鳥獣戯画

正確には不明。

一説には修行僧の稚児を喜ばせるために描かれた、とも絵師の純粹な遊びとも言われています。真相は未だ不明です。

ピーターラビット

子供。

文だけではなく絵でも語る形式や、形態で前述した大きさだけでなく、昔話のスタイルや語り口を採用したことで子供にとっつきやすくなっています。

● 登場動物について

鳥獣戯画

甲巻では当時日本で見られた動物のみ描かれています。ほとんどの動物が擬人化されているのに対し、鹿、猪、ふくろうだけは擬人化されていません。乙巻では象や虎など日本にはいない動物や、麒麟(きりん)、龍、獅子など架空の動物が、動物図鑑の要領で描かれています。



丙巻や丁巻では人間も描かれています。

ピーターラビット

基本的にイギリスにいる動物だけが描かれています。しかし、アメリカの読者からの要望で『カルアシ・チミーのおはなし』ではハイイロリスやクロクマなどアメリカに生息する動物を登場させています。

ピーターラビットが有名ですが、ピーターがメインのおはなしは『ピーターラビットのおはなし』と『ベンジャミンバニーのおはなし』の二話のみです。

● 絵について

鳥獣戯画

水墨で描かれ、彩色はされていません。仏教の教えを伝えるため、ぶれのないシンプルな線描で描かれた白描画の流れを汲んでいるのではないかと言われ、その点でも鳥羽僧正が作者として疑われています。

細かな描写がなされ、動物は観察のもとに描かれているものの、カエルも猿もみんな同じ大きさと描かれています。表情豊かで人間味が絵からにじみ出ています。

ピーターラビット

観察に忠実に描かれています。ポターは死んだ動物を鍋で煮て骨格から観察していたと語られるエピソードのように、とにかく忠実なスケッチが多いです。擬人化をするために動物の姿勢などでフィクションを交える点



も多いですが、そのかわりに人間や背景はかなり実物に近

く描かれています。そのこだわりから、背景のモデルになった土地の多くがわかっています。また、その土地についてもナショナルトラストによって開発から守られています。

● 物語について

鳥獣戯画

この項目ではいわゆる「鳥獣戯画」である甲巻について扱います。

人間の行事を真似る動物のごっこ遊びが描かれています。強欲な生臭坊主の猿など社会を揶揄する面もあり、風刺画ではないかとも言われています。

説話や伝承、和歌、芸能などを前提にしたキャラクターの配役や、小物の配置によって、こちらの想像力を逞しくさせてくれます。

たとえば、月や夜を連想させるモチーフが並ぶ鳥獣戯画は、実は夜の光景なのではないか、など謎は尽きません。詞書で語らないところや、シンプルな線描の白描が無限の可能性を与え、ミステリアスさに拍車をかけているように感じます。

ピーターラビット

人間模様が動物に反映させていますが、彼らは動物としての特性も併せ持っています。服を着ていない時は、擬人化されていない動物のままの彼らなのではないか、という説もある程です。

また、ピーターのお父さんが人間にパイにされてしまったと最初から書かれているように、子供相手に妥協せず現実や自然の理を伝える姿勢が伺えます。

これらは教訓とともに語られるように見えますが、絶対悪を存在させない点で実は教訓の皮をかぶった不道德話ではないか、という指摘もあります。彼女がピーターのおはなし

を執筆する前までつけていた暗号日記で、ポターはヴィクトリア時代の価値観への反発をよく綴っていました。ヴィクトリア時代への反逆の声を、薬に見せかけ滑り込ませていたのかもしれませんが。

● 当時の動物観について

鳥獣戯画

日本列島中央部には当時直接ヒトを捕食する動物がいなかったため、動物は闘争の対象にはなりにくかったようです。また、人間の生が他の動物の殺害の上に成立していることの認識は、動物の霊への供養によって昇華されました。

これらはアニミズム(自然崇拜)としてあらわれ、動物の多くを神格化したり、神の使いとしたりしました。

「七つまでは神のうち」とも言いますが、子供も動物同様に神的なものとみなされていました。子供と動物は当時非常に身近な存在とされ、それぞれが親しく交流する空間として「鳥獣戯画」として描かれているのではないか、という見方もあります。

ピーターラビット

ヨーロッパでは古来自然は征服する対象としてみなされてきました。18世紀前半では、自分達は自然の為すがままだと人間は考えていましたが、科学と工学によって自然は支配し得るものになりかけていました。この変化に伴って、自然の象徴である動物もまた脅威ではなくなってきました。この変化が一番めざましかったのがイギリスです。19世紀のイギリスでは、動物いじめが主流に行われていた一方で、動物愛護団体が発足し、残酷さは下流な人間の性癖であると訴えることで対抗しました。

また、イギリスでは動物を用いた暗喩・隠喩を多用していま

した。人間関係を動物で語ることは当たり前のことであり、その中でも階級を意識したものでした。ポターはこうした一種歪んだ動物の扱いを、動物擬人化という当時多用されていた手法を用いて皮肉ったのではないかと考えました。

まとめ

ピーターラビットも鳥獣戯画も、最初の出会いを覚えていません。きっと読み聞かせの時間であったり、社会の授業やテレビの画面であったりしたのだと思いますが、彼らは自然と生活に溶け込んで私の無意識下の存在になってしまいました。もちろん、とるに足らないものというわけではなく、空気のように傍にあって私を構成するものという無意識です。それから少し大人になって、ピーターラビットや鳥獣戯画を再発見した時、不思議に思ったことがあります。それは同じ動物擬人化の古典なのに、自分の中でカテゴリ分けが違ったことです。同じくくりにするにはなんだか違和感がある……ということで、自分の違和感の正体を探りたいという自分本位な理由で比較に至りました。

結果は見てのとおりですが、私が納得したのはポターの幼少期についてです。ピーターラビットは絵本にでてくる友達という意識が強いのは、自然を友達とみなしていたポターの価値観が作風に表れたのかと感じました。

また、鳥獣戯画に感じていた現実を超越した感覚は、神性という言葉当てはめるとしっくりきます。

無意識下の存在であった時にも、絵本の柔らかさと水墨画のシンプルさから、動物の扱いの違いを感じ取っていたのかなと思いました。



● 参考文献

『ピーターラビットの世界』

吉田新一著 日本エディタースクール出版部発行 1994.10.28.
第1刷

『動物とのつきあい - 食用から愛玩まで -』

国立歴史民俗博物館編集・発行 1996.3.19.

『特別展 鳥獣戯画 京都 高山寺の至宝』

東京国立博物館、朝日新聞社編集 朝日新聞社発行 2015.4.28.

『階級としての動物』

ハリエット・リトヴォ著 国文社発行 2001.9.10.初版

『別冊宝島2302号 鳥獣戯画の謎』

蓮見清一創刊 宮田美緒編集 宝島社 2015.12.17.第8刷

『モエ9月号 第38巻第9号 通算443号』

八巻健史発行兼編集 白泉社 2016.8.3.

『絵本ブックエンド 2012』

絵本学会機関誌編集委員会編集 絵本学会発行 朔北社発売
2012.12.20.



十二支のお話

文・撮影 / 後迫かほり

● 十二支って？

十二支と聞くと、多くの人は鼠、牛、虎、兎、龍、蛇、馬、羊、猿、鶏、犬、猪の12種類の動物たちのことを思い浮かべるかもしれません。

しかし、元々十二支と動物とは関係ないものであったことはご存知でしょうか？

日本では、十二支という言葉自体で12の動物を指すことが多いのですが、十二支（子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥）とは、元々十二年で天を一周する木星の軌道上の位置（天の位置）を示すための任意の数詞で、年を数える数詞だったのです。やがて、月・時・時刻を数える数詞などにも用いられるようになりました。

このことについて、稲毛神社の市川登志雄さんにお話を伺いました。

神奈川県川崎市にある稲毛神社は、樹齢約一千年ともいわれる御神木大銀杏がある当地の古社で、御神木大銀杏の周囲には十二支のブロンズ像が配置されています。お

「十二支は、年や月、日だけでなく、方位、方角や時刻、季節などもあらわしています。次の表をご覧ください。」



	方角	季節	色	年齢	時刻
子	北	冬	黒	60歳前半 以降	23時～1時
丑	北北東				1時～3時
寅	東北東				3時～5時
卯	東	春	青	16歳～ 30歳前半	5時～7時
辰	東南東				7時～9時
巳	南南東				9時～11時
午	南	夏	朱(赤)	30歳前半～ 50歳前半	11時～13時
未	南南西				13時～15時
申	西南西				15時～17時
酉	西	秋	白	50歳前半～ 60歳前半	17時～19時
戌	西北西				19時～21時
亥	北北西				21時～23時

市川さんの見せてくれた表からもわかるように、十二支は色々なものをあらわす記号として利用されてきました。

現在の日本でも、ねずみ年、うし年など年を十二支であらわす習慣は残っています。

年賀状にその年の動物のイラストを描く人も多いでしょう。しかし、日付や時刻などを十二支であらわすということはとても少なくなってきました。

今でも方角や日付をあらわすのに利用されているのかどうか、市川さんに伺うと、「稲毛神社の御神木大銀杏の周囲に十二支像がありますが、これらは十二支のあらわす方角のとおり配置されています。また、境内に大鷲神社がまつられています。この大鷲神社のお祭りである酉の市は、十一月の酉の日に行うことになっています。」



御神木大銀杏

とのお話でした。神社などでは十二支のあらわす方角や日付が今でも利用され、残っていることがわかります。私たちの生活の中でも完全に失われたわけではなく、土用の丑の日にうなぎを食べたり、幽霊が出やすいといわれている時間を丑三つ時（午前2時～2時半）といたり、日や時刻に十二支を利用していた名残があるんですね。

● 十二支と動物

では元々動物と関係がなかった十二支は、どうして動物と結び付けられるようになったのでしょうか？

いろいろな説がありますが、一説には人々が十二支を覚えやすくするために動物12種をピックアップして割り当てたのではないかといわれています。

日本では、鼠、牛、虎、兎、龍、蛇、馬、羊、猿、鶏、犬、猪の12種で、江戸時代には一般市民の間に浸透していたと考えられています。

実は、日本以外の国では、この12種の動物が違うこともあるんです。

このことについて、市川さんにお話を伺いました。

「十二支の動物は、国により違いがあります。日本以外の国では、牛の代わりに水牛であったり、兎の代わりに猫である国もあります。」

ベトナムでは、牛ではなく水牛、兎ではなく猫、羊ではなく山羊、猪ではなく豚であったり、モンゴルでは虎ではなく豹であるなど、違いは様々なようです。

日本では残念ながら猫がいませんが、チベットやタイ、ベトナムでは十二支に猫が割り当てられていて、猫の干支グッズが飾られることもあります。

猫好きな方は、これらの国に行く機会があればお土産に探してみると面白いかもしれません。

十二支の物語

十二支に割り当てられた動物12種類は、どのようにして決められたのでしょうか？

世界各地に十二支の動物に関するの物語があり、国や地域により少し違いがありますが、そのお話の中で、十二支の動物を決める立場の者が動物たちを召集し、先着順に決めたといわれています。

その中でも、日本では、

- 牛は足が遅いので早めに出発したものの、一番乗りしたのは牛の背中に乗っていた（角にしがみついていた、しっぽにぶら下がっていた）鼠である。
- 猫に日にちを尋ねられた鼠は嘘をつき、一日遅い日を教えたので猫は十二支に入れなかった。それを根に持ち猫は鼠を追いかけるようになった。

という話が多くみられます。

その他にも、

- 鶏が猿と犬の間になったのは、仲の悪い両者を仲裁していたため。
- 猪は足は速かったが、猪突猛進して目的地を通り過ぎて最後になってしまった。

というようなお話があります。

惜しくも13番目で十二支に入れなかった動物についてもいくつか異なる説があり、鼯(いたち)や蛙、鹿などともいわれています。



申と亥のブロンズ像(稲毛神社)

ところでこのようなお話に出てくる動物たちの性質はあくまでお話の中のもので、本物の動物たちがみんなそうであるとは限りません。

例えば足が遅いから一日早く出発した牛ですが、本当に足が遅いのでしょうか？

私は牧場へ実習に行った際、仔牛のお散歩をしたことがあるのですが、犬に負けなくらいの速さで走って(というより飛び跳ねて)引っ張られました(笑)

牛はのんびりしていると思われがちですが走ると結構速いので、一日早く出発する必要はないかも知れませんね。

お正月くらいにしかあまり意識しない十二支のお話、いかがだったでしょうか？

これを機に少しでも興味を持っていただければ幸いです。

● 取材協力

稲毛神社 市川登志雄様





うさぎ島から人と動物の関わり方を考える

文・撮影(1点を除く)/山本悠暉



● 大久野島とは

皆さんはうさぎ島と呼ばれる島をご存知でしょうか。それは広島県の瀬戸内に位置する島で、正式名称は大久野島と言います。島の特徴はなんと言っても野生のうさぎが生息していること。現在おおよそ700羽のうさぎが暮らしており、全国的にも珍しいため日々観光客が絶えません。今回はうさぎ島から私達人間と動物の関わり方について考えていきたいと思っています。



● うさぎ島はふれあいの動物園ではない！



大久野島は野生のうさぎが生息しており、人間にもなつきやすく、エサを与えると簡単に心を許してもらえます。そのためうさぎ好きの人にはたまらない島ですが、観光客が

増加するにつれ、本来の生態系を破壊し島が壊れつつあるのです。問題は山ほどありますが、いくつか紹介してみたいと思います。

● うさぎを持ち帰る人

うさぎは人のように家族・集団で行動するため親子関係の強い絆で結ばれています。仔ウサギを見ると、とても小さくて大人しく本当に可愛いです。しかし、親子関係を引き裂きこの仔ウサギを持ち帰ってしまう観光客がいます。野生のうさぎは厳しい環境下で生きる力を持っているため、人に慣れることが難しくエサをなかなか受け付けてくれなかったり、ストレスで死んでしまったりする他、野兎病などの人間にも感染する病気を持っていることも少なくないため人が飼うことはできません。そもそも大久野島のすべての生物は自然公園法が適用されているため、持ち帰りは犯罪になります。



● 家庭うさぎを捨てる人、ペットを持ち込む人

野生のうさぎは集団の中でとても厳しい上下関係が形成されており、弱肉強食の世界です。餌は常に取り合いになり、弱いうさぎは生きていくことができません。そこで家庭うさぎを島に捨てるとうなるのでしょうか。当然、家庭うさぎには自然の中で生きていく力はなく、直ぐに野垂れ死にしていまいます。また、ペットを連れて島内を散歩する観光客もいますが、野生の生態系が形成されている島に他の動物を持ち込むことで島の生態系破壊につながります。

● 沢山の餌を持ち込み、ごみを放置して帰る人

島には連日沢山の観光客が来て、皆餌をあげて写真を撮ることに夢中になっています。野生のうさぎは本来、人から食料をもらわなくても生きていくことができますが、観光客もうさぎに餌を食べてもらおうとうさぎの好物を島に持ち寄って与えます。しかし、当然うさぎも食べられる量しか食べられず、現在は観光客がとても多いため昼頃には満腹になっていて、そのあとに来られた人が餌を与えても食べません。食べられない餌はほとんどが持ち帰らずに、「いずれ食べるだろう」と考えて適当にばらまく人さえいます。放置された餌は、うさぎの天敵であるカラスの標的となり、人がいなくなると餌を取りにやってきます。そして、集まったカラスによって仔ウサギまでもが餌食となり、親うさぎですら殺されてしまうことがあります。うさぎは大きな耳の発達などから、そういった天敵から身を守ることに



この写真はうさぎ島の活動家の方よりお借りしました。

は敏感な動物ですが、人が餌をやることにより敵意識が低くなり、敵が近くにいても巣に戻らなくなってしまうことも原因の一つです。

● 野生動物学の視点から考える

野生動物の個体数や行動は、個体を取り巻く生態系の様々な要因に影響を受けながら変化をしています。うさぎ島のうさぎも野生動物であるため食物連鎖があり、うさぎたちは天敵から逃れることで生き残ってきました。そこに人間が島を汚染したり、通常の生態系にはない栄養物を与えたりすることで生態系を破壊しかねないのです。

更に、野生動物にはその環境でどれだけその野生動物を収容できるかを示す「環境収容力」という言葉があります。野生動物は環境収容力を超えて生存することは出来ません。現在のうさぎ島には700羽のうさぎがいますが、例えばうさぎ島で共存できるうさぎが最大700羽と仮定すると、それ以上急激に増加した場合は餌がなくなったり、競争を行ったりして時間が経つと最大収容数へ生息数は戻ることになります。この環境収容力は常に変化しており、当然上述した食物連鎖とも大きく関わりがあるため、環境劣化や環境破壊で環境収容力は大きく低下してしまうのです。うさぎ島においてもこの環境収容力の急激な低下が危ぶまれています。

● マスコミ報道の在り方について

うさぎ島が有名になったのも、マスコミが取り上げたことが大きな要因ですが、その番組内容は「大久野島はいつきても沢山のうさぎと触れ合える大きなうさぎカフェ」であるかのような伝え方をしており、島の生ごみ問題やマナー、ルールについて一切触れておらず、芸能人の方もうさぎを高く

抱き抱えるなどして誤った知識を世間一般へ報道していることはとても残念です。

問題点はまだまだありますが、うさぎ島はうさぎとふれあえる島ではなく、“野生のうさぎが生活している島”であることを人々に理解して頂きたいのです。



● 人を噛む宮島の鹿、お土産店を襲う日光の猿、都市に出没する猪



人が野生の動物に対して影響を及ぼしているのは大久野島だけではありません。広島県宮島に生息する野生の鹿もまた有名であり、人懐っこく、近寄っても全く

逃げない動物の姿は人間にとって観光の“名物”ともなり、鹿は人から餌をもらうことに馴れて市街地へ降りるようになりました。結果、人から餌をもらう鹿は更に増え、ビニールごとあげてしまう人まで出てきました。ビニールを誤食した鹿に自然には無い苦しみを与えるといったトラブルが増加し、また鹿も人間を警戒しなくなり人に噛みついて餌を乞うようになりました。これらのことから、現在では餌やりを禁止し、自然の姿に戻す取り組みが始まっています。栃木県の観光地である日光には野生のニホンザルが生息し

ていますが、ここでも人々の餌付けによって人馴れし、猿は売店やお土産店の店内まで侵入して食べ物を盗んで食べるようになってしまいました。

更に、兵庫県には都市部に猪が降りてくることが多々ありけが人が出たり、散歩中の犬が突き殺されてしまったりと多くの問題が起きています。この問題も人間が餌付けをしたことや、森林伐採による餌が捕獲できなくなるなど、人間の原因によるものです。

● 人と動物の関わり方を考える

人は動物を可愛がり、動物は餌欲しさに人に近寄る。これは伴侶動物（ペットの犬や猫、ハムスター、家庭うさぎなど）がブームとなった現代特有の現象です。本来動物には野生で生き延びていく力が備わっていますが、人が関わることでバランスが崩れ、様々な問題が起こるようになりました。伴侶動物やふれあい動物園の動物などの”触れてよい動物”と、野生に生息する動物を同じように考えてはいけません。自然の姿を撮影したり、観察したりするだけであればほとんど生態系への影響はありませんが、人がひとつ餌をあげた瞬間に自然の姿は崩壊し始めるのです。そして今、大久野島や宮島では本来の姿が変わってしまいました。私たち人間はそれら野生動物と、伴侶動物の関わり方を区別して考える必要があるのです。動物との関わり方を真摯に見つめ直さなくてはなりません。



終わりに。

大久野島や宮島には管理事務所などを初め、多くのボランティア、活動家が毎日清掃やマナー順守の告知を行うなどしており、人と動物の関係は正しい方向へ修正されつつあります。例えば、そういった清掃のゴミの山を見て餌やりを遠慮したり、野生動物にこれをしたら動物に影響あるかな？と思い留まることで行動を遠慮したり、そういったことがわたしたちに求められています。この記事が一人でも多くの方にとって、野生動物と伴侶動物の関わり方を見つめ直すきっかけになれば幸いです。



うさぎ島

うさぎ島から人と動物の関わり方を考える

うさぎ島から人と動物の関わり方を考える

うさぎ島から人と動物の関わり方を考える

うさぎ島から人と動物の関わり方を考える

うさぎ島から人と動物の関わり方を考える

うさぎ島から人と動物の関わり方を考える

うさぎ島から人と動物の関わり方を考える

うさぎ島から人と動物の関わり方を考える

うさぎ島から人と動物の関わり方を考える

うさぎ島から人と動物の関わり方を考える

うさぎ島から人と動物の関わり方を考える

うさぎ島から人と動物の関わり方を考える

うさぎ島から人と動物の関わり方を考える





ペットを撮る

文・撮影 / 前田采香



モデル：ドゥ

ペットを飼っている方なら、確実に「うちの子は…」と身近な人に話すこと、ありますよね？

そんな時にスマートフォンで写真を見せることもあると思います。やっぱりかわいい「うちの子」を見せるならきれいに撮りたいと思うはず！今回はカメラマンの石原敦志さんをお願いして、スマートフォンでペットをきれいに撮るコツを教えてくださいました。石原さんは雑誌を中心にweb、広告等幅広い分野で活躍されているベテランのカメラマンです。

スマートフォンでペットをきれいに撮るコツを教えてくださいました。石原さんは雑誌を中心にweb、広告等幅広い分野で活躍されているベテランのカメラマンです。

1 準備

とりあえず撮る、といってもいつどこでどう撮るか、など言い始めたらキリがありません。というわけで、オススメを紹介していきたいと思います。

● アプリ

撮影後の画像加工等が簡単にできるインスタグラムがオススメです。LINEカメラも使い易くて便利です。けれども、これらのアプリを使っていない方もいると思います。そこで今回はiPhoneに初めから入っているカメラアプリでの撮影について説明していきたいと思います。



● バースト

基本的にペットはじっとし続けているわけではありません。また、撮りたいと思う瞬間に止まってくれるわけでもないので、撮影はバースト（連写）で行うほうがいい写真を撮れる可能性があります。アプリの撮影ボタンか本体の音量ボタンの長押しで連写できます。

● インカメラ

ペットとの2ショットでインカメラ（液晶画面側のカメラ）を使う方がいますが、インカメラは画質が少し悪いので、可能であればメインカメラを利用する方が手ブレが少なくなります。

● フレーム

撮り方によってさまざまな形になるので、形に合った向きやフレームにしましょう。例えば、イヌの横顔を撮る場合は横画面、全身像を撮りたい場合は縦画面、猫の丸顔を撮りたい場合はスクエア（フレームの形）にすると写真のバランスが自然に整います。また、自分で決めたフレームより一歩被写体に近寄って撮影をしたほうが、撮ってから拡大するより画像の粗さが少なくなります。ズーム機能は画質が悪くなるので極力利用しないことをおすすめします。写真を見た人に「何を見てほしいのか」でフレームの形や向きを変えてみましょう。



モデル：クマリ

ハリネズミがティッシュ箱に入っているのぞいている写真を撮りたい場合は画面を横にして撮りますが、ハリネズミだけを撮りたい場合はフレームをスクエアにした方が、周囲の余計な情報が入らない写真になります。

● 手ブレ

あまり明るくない場所だと、シャッターを切るだけで手ブレをすることがままあります。スマートフォンを固定できるのであれば、イヤホンを使うという方法もあります。音楽を止めるスイッチがついている純正品のイヤホンであれば、それを押すことでスマートフォンが揺れることなくシャッターを切ることができます。

● 構図

被写体が何であるかによって構図を考えましょう。例えば、富士山を背景に犬の写真を撮りたい場合、犬がメインなのか、富士山がメインなのかで構図は変わってきます。

周りの情報が必要ない場合は思い切ってペットに寄ってみましょう。てっぺんから足先まで写しきる必要はありません。写真いっぱいにはペットを写す方が画像の粗さが抑えられ、より鮮明になります。



モデル：KING 太郎

2 撮影

準備では知るべきことがたくさんありましたが、撮影は簡単。とにかく撮ることです。ここでは撮影するときのポイントを押さえていきます。

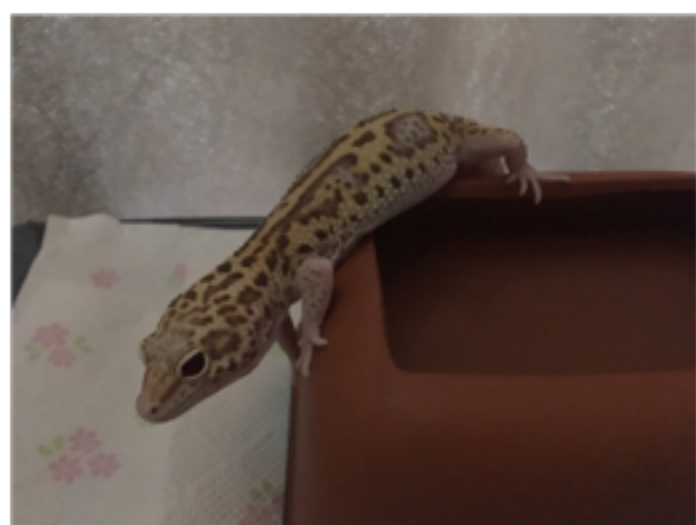
● 屋内での撮影 ～ 光 ～

ペットと一緒にいる時間は屋外より屋内の方が長い方が多いと思います。ということは、屋内でのシャッターチャンスも必然的に多くなるわけですが、屋外と違い、手ブレや画像が荒くなること、写真が暗くなることに悩んだことのある方もいるのではないのでしょうか。これらはすべて「光を利用す

る」ことで解決します。光を利用するといっても、ほんの少し意識するだけです。まず、逆光で被写体が暗くなる場合、順光になるようにペットを移動させてもいいですが、カーテン等で光が和らいでいるときの逆光は、実は被写体だけをはっきり写すことには効果的なんです。撮影時は多少ペットが黒くなってしまっても構いませんが、ちゃんとペットにピントを合わせて撮影すれば、あとは編集の時に明るさを調節するだけでペットに後光がさしているような写真にできます。お部屋に写ってほしくないものがあるときや、背景がごちゃごちゃしてほしくないときにも、この方法は有効ですので是非お試しください。また、白いシャツや白いタオル等を身に着けることで光を反射させてキレイに撮るといふ裏技もあります。

● 明るさの調整

モデル：たんぽぽ



①



②



夜行性の動物だと暗いときに動くことの方が多いです。このように光量が足りず、暗い写真を撮っても…

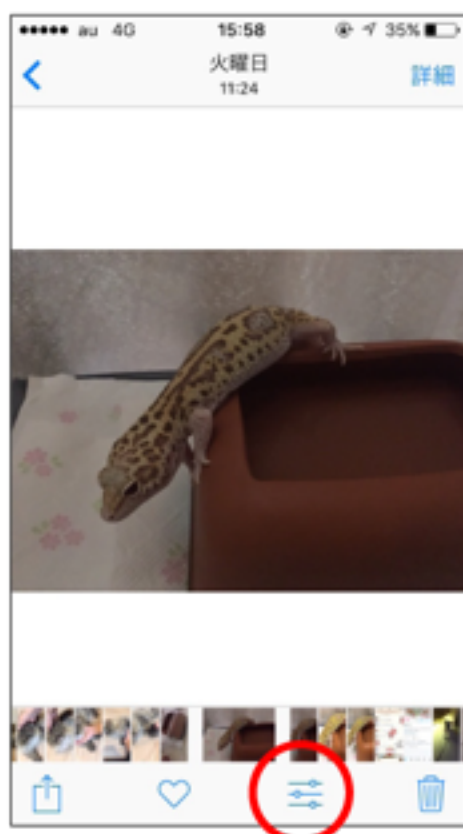
① iPhone に初めから入っている写真アプリで編集してみました！

② 画像編集アプリで編集してみました！

暗い画像も、明るいお部屋で撮ったみたいでしょう？

● 手順

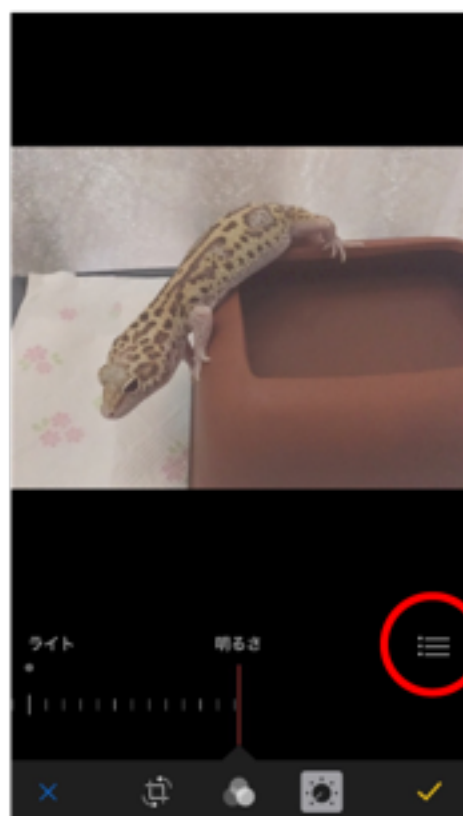
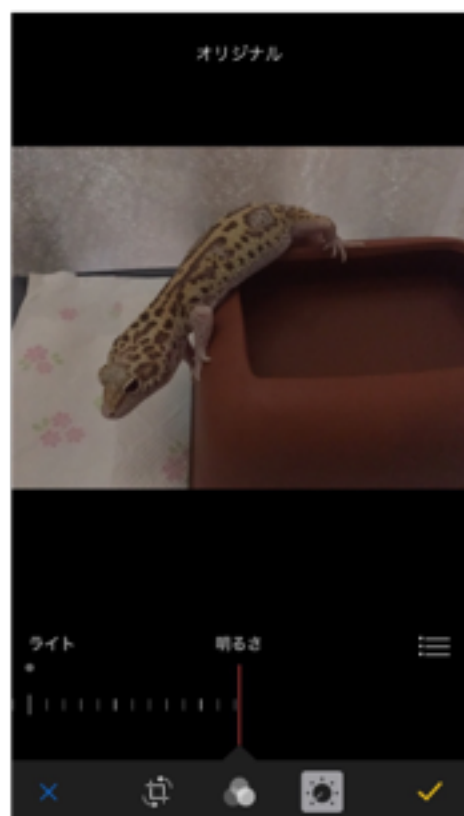
簡単に編集方法を説明します。もちろんこれが絶対ではないので、慣れてきたら他の編集項目も使ってみてください。



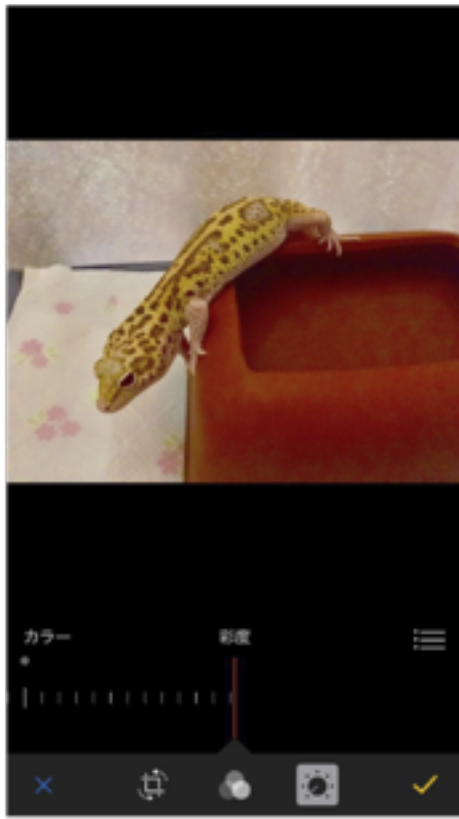
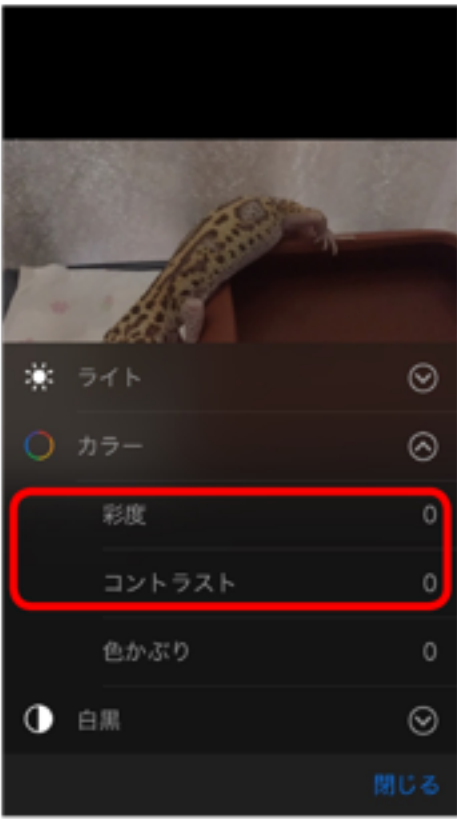
カメラアプリから編集したい画像を選択し、○の付いているところをタップ👉



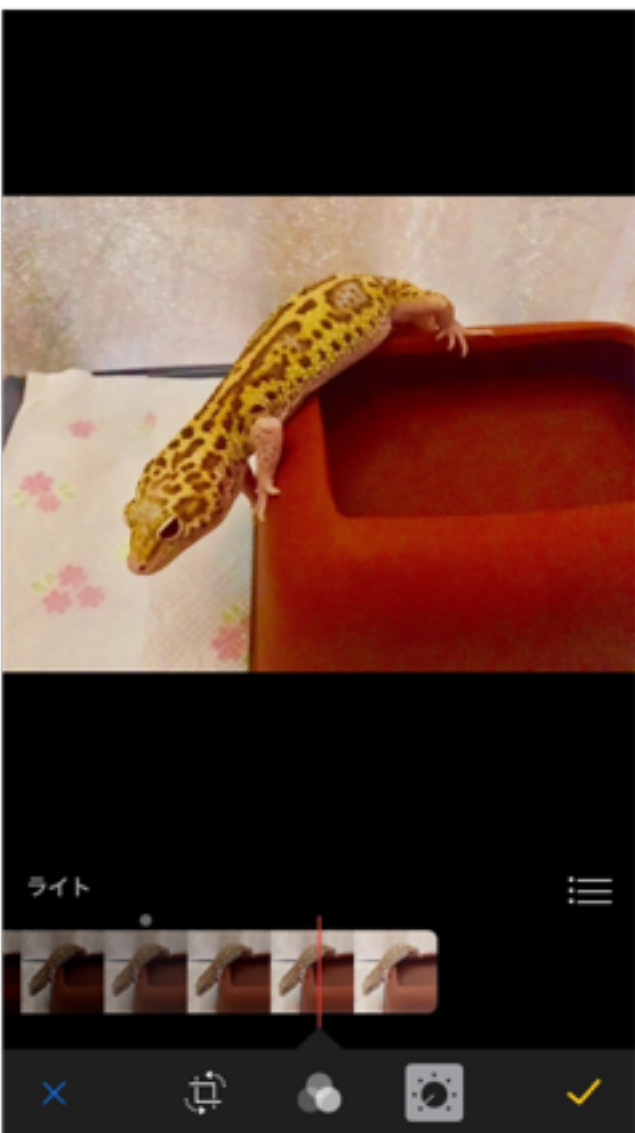
ライト→明るさの順に選択



下部目盛りの点の付いている位置がオリジナル画像の明るさです。今回は明るさを最大にしてみました。明るさの編集が終わったら目盛りの右上にある○をタップ👉



カラーの項目に移り、今回は彩度とコントラストを調整しました。



完成♡

もう一度、ライトに戻ると明るさ等編集後の画像が並んでいると思うので、よりペットのカラーに近い画像にして画面右下のチェック ✓ をタップすると編集完了です。



● 逆光補正

モデル：あがにゃん



同様の方法で、明るさはまだあるけど逆光！という時や、照明が弱くて暗い！というような画像でも…

①写真アプリで編集！

②画像編集アプリで編集！

暗い分、編集しても粗くはなりません。が、ふんわりとして優しい印象を受けませんか？



● 小動物の撮影のコツ ～ 高さ ～

撮影する動物によって撮り方を変えるというのもポイントになります。

小動物の場合、目線が低すぎるのでより簡単にきれいな写真が撮りたい場合は机などの高いところに置いてみましょう。また、小動物というだけあって小さいので、あまり離れると見にくい写真になってしまいます。できるだけ距離を詰めて撮影してみましょう。人が近くにいると逃げてしまうような子の場合には、スマートフォンを地面に立てて置いてイヤホンでシャッターを切るというのも一つの手です。その際、カメラの位置が地面に近いのか、離れているかで写真での被写体の動きに変化が出ます。まずは、小動物の目線の高さに合わせてカメラの位置を決め、撮ってみましょう。

Movie

石原さんの撮影風景

Movie

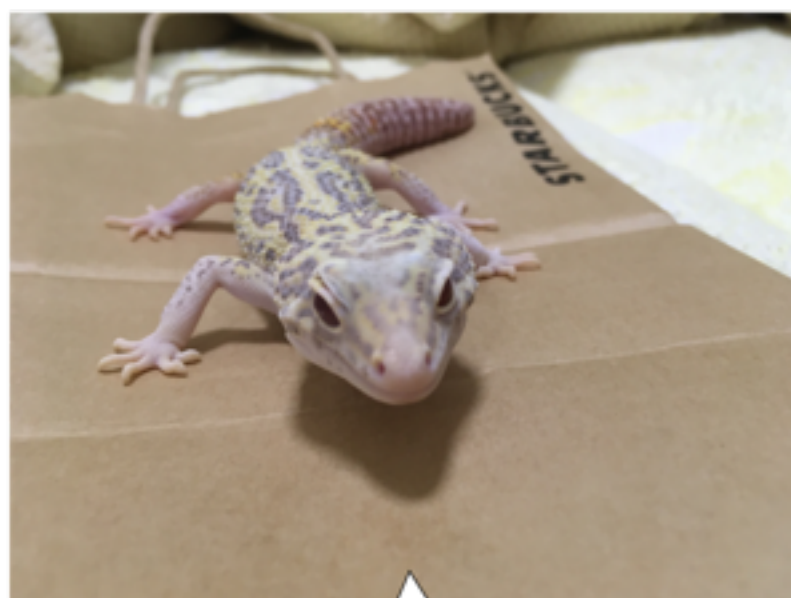


モデル：クマリ

● 高さの変化

モデル：たんぽぽ

脱皮真っ最中のたんぽぽ君（ヒョウモントカゲモドキ）に撮影協力してもらいました。



普段見る小動物ってこのアングルが多くないですか？
でも写真におさめるのにこのアングルは…微妙ですよ（；・`Д´）
それにしてもたんぽぽ君真っ白W
この写真だと右目が脱皮し始めているということだけは分かりますね！

というわけで正面から撮ってみましたが…普段彼の前にはケータイなんかありません（汗）
当然、逃げるか寄るかでピントが合わなくなります。ケータイを固定してシャッターチャンスまで待ってもいいですが夜行性の子はこんな明るいところに長居したくありません（泣）

● 小道具を使って

こういう子には、狭いところや暗いところに行ってもらいましょう。落ち着いてくれますよ！



そこで今回利用したのがペン立て（100円均一で購入）。フラットなタイプではなく、縁が斜めになっているタイプなので、たんぽぽ君に隠れているという安心感を与えつつ、光も入り、動かなくなったたんぽぽ君をきれいに写せます。撮影の間にも鼻先の皮がめくれてきてますW

頭の上までむけてほっかむりのよう…W
何枚か撮っていたら思ってもみなかった写真が撮れるかもしれませぬね！

● 活発な子の撮影 ～ 小道具 ～

犬・猫などで、活動的な子の場合は撮影に苦労するかもしれません。シャッターを切ったときにはもうすでにフレームアウトなんてこともあったり…(笑)。犬の場合は先にお散歩などで運動して少し疲れさせるのも手ですが、おもちゃやおやつで興味を引ける場合はそれらを利用してみましょう。猫の場合は特に、猫じゃらしなどの動くものに反応してしまうという本能があるので、シャッターチャンスは作りやすいと思います。犬も猫ほどではありませんが、突然不思議な動きをするものや、普段聞かない音(ある場合は、リコーダーに反応する子もいます)があると一瞬動きが止まります。ペットが飽きる前にバースト機能を利用して手早く撮りましょう。他の物に意識が行ってしまう場合は、諦めて待つのが無難です。

Movie

石原さんの撮影風景

Movie



モデル：KING 太郎

● 活発な子

撮影協力はまだまだ若くエネルギッシュなメイ＝チャンちゃん(ボーダーコリー)、ウィンリーちゃん(イエローラブ)、落ち着いたあるアルフォンス君(黒ラブ)の3頭にお願いしました。



お座り！



モデル：メイ＝チャン

全く落ち着かないメイ＝チャンちゃんとそれを見るアルフォンス君。プしてどんな顔なのかわかりませんw

オスワリする子なら、このように座ってもらうときわいかに顔を写せませぬ(=°ω°)b
もちろんお菓子で釣ってますw



モデル：メイ＝チャン
ウィンリー

あんまりハイパーな子なら、遊ばせてから撮りましょう。躍動感がほしい場合は遊び始めに連写です。今回人気のない海に行ったので小道具はそこら中に漂着してました(汗)



モデル：アルフォンス
ウィンリー

ようやく疲れてくれたので落ち着いてシャッターチャンスを探せます。これだとアルフォンス君が黒すぎて顔がよく分からないので加工しないためですぬ(><)

ちょっと小技を効かせて。

自宅や実家では犬猫はもとよりエキゾチックアニマルも飼い、動物に囲まれて育ちました。動物好きが高じて始めたペットシッターのアルバイトでは、お客様が留守の間のペットの様子を撮影して報告する必要があります。撮るならやっぱり、お客様に喜んでもらいたい！かつ、私がこの子達を可愛い！と思っていることが伝わるような写真にしたいと思い、自分自身のためにも動物の撮り方を調べようと思いました。インターネットで調べただけでも上記に書いていないようなコツがたくさんありましたが、石原さんにちょっとしたテクニック、特に光の使い方について、より実践的な撮影方法を伺えて勉強になりました。実際、アルバイトに行ったときに試してみているのですが、明るい方をあまり見ながらいない猫ちゃんもいるので、逆光を気にしなくてよくなったのは個人的に感じる大きな進歩です。

いつでもどこでも手軽に撮れる、小回りが利く、ペットたちに気づかれずに撮れるのがスマートフォンの良いところです。画像の加工も難しくありませんし、インスタグラムを使えば、自分で細かい設定をしなくても加工することができます。ぜひ、「うちの子」をかわいく or かっこよく撮ってみてください！



モデル：クマリ



最後に取材中、石原さんにご指導いただいて接写したクマリ君。怒った顔すら可愛く見えるように写せました(親バカ)。

● 取材協力
Photographer 石原敦志様

編集後記

実際に自分の目で動物介在活動の現場を見て、様々な方にお話を聞けて、大変貴重な経験ができました。この記事が動物介在活動に興味を持って頂けるきっかけとなれば嬉しいです。ご協力頂いた皆様、本当にありがとうございました！
仙台の牛タンとっても美味しかったです♪

鎌田実希

今回のしつけは飼い主と犬が安全に幸せに暮らせるように考え作られていて、実際に練習してみても私もプーもとても楽しめましたし、その後は何だか目と目を合わすことが多くなり絆の深まりを感じています。

実は今回の取材にご協力いただいた“なべはまり”の先生が9月下旬お亡くなりになりました。大変親切な先生で丁寧に指導して下さったので、本当に悲しく残念な気持ちでいっぱいです。

謹んでご冥福をお祈り致します。

宇埜友美子

始めは白紙の状態ですが、読み手に伝えたい動物に関するテーマを考え、様々な行程を経て一つの記事ができた時の達成感はどこでしか味わえない「のっばら」の良さです。日頃何気なく目に入るメディアの制作には沢山の人も多くの時間が関わっている事もわかりました。私にとっては今回が最後の「のっばら」ですが、制作を通して、伝える事の難しさや大切さを実感する事ができました。ありがとうございました。

小谷幸穂

今回、自分の体験や感じたことを話したことで改めて自分がこの活動から得たことを再確認することが出来ました。少しでもみなさんにポニーのことやハーモニセンターの活動を知ってもらえれば嬉しいです。ありがとうございました。

折田琴美

最初に考えていた着地点とは違った結論になりましたが、勉強になりました。来年こそ、早めに原稿提出できたら良いなと思ってます。

鈴木かりん

かわいいものに囲まれて楽しい作業でした。ピーターラビットでは黒うさぎ、鳥獣戯画では鼻をつまんで水に飛び込むうさぎが特に気に入りました。

永山正実

取材をするということが初めてで、とても緊張しました。丁寧に対応していただいた稲毛神社の市川様には心から感謝しています。十二支について調べてみると、私自身知らなかったことがたくさんあり楽しかったです。

後迫かほり

今回記事を書き上げる上で、読者にものをわかりやすく伝える難しさを痛感しました。また取材がスムーズに進まなかったこともあり、1人の力で記事を書き上げることは難しく、人との繋がり大切さを学びました。

山本悠暉

今回の石原さんへの取材のおかげで、バイトでもお客様に写真を褒めていただくことが増えました。やっぱり…こだわるなら一眼レフですね（本末転倒）。動物の特徴を理解したり、その子に合った撮影方法を探したり…することはたくさんありますがやっぱり一眼レフですね（白目）。

前田采香

「のっぱら編集部」
日本獣医生命科学大学
獣医学部 比較発達心理学教室

〒180-8602
東京都武蔵野市境南町1-7-1
tel 0422-31-4151
fax 0422-31-6992
E-mail shinri_nvau@hotmail.com

発行：2016年11月1日

編集長：鎌田実希（日本獣医生命科学大学4年）
編集：宇埜友美子（同5年）
小谷幸穂（同5年）
折田琴美（同4年）
鈴木かりん（同4年）
永山正実（同4年）
後迫かほり（同3年）
山本悠暉（同3年）
前田采香（大学院1年）

編集指導：柿沼美紀（日本獣医生命科学大学 教授）
野瀬 出（日本獣医生命科学大学 講師）
能勢剛秀

電子書籍制作：Ahwin Co.,ltd

Special Thanks：しつけのお手本を見せてくれたチワワのやくもくん、しつけを頑張ったプーちゃん、アジリティ競技ですばらしい走りを見せてくれたアフロちゃん、撮影モデルになってくれた猫のドゥちゃん、あがにゃんちゃん、ハリネズミのクマリくん、犬のKING太郎くん、メイ=チャンちゃん、ウィンリーちゃん、アルフォンスくん、ヒョウモントカゲモドキのたんぽぽくん